

# 認定看護師 News レター 第73報



皆さん、こんにちは。 摂食嚥下障害看護認定看護師の原口佳寿美です。  
 高齢化が続く近年、高齢者に多い疾患として「誤嚥性肺炎」があげられます。  
 今回の認定看護師ニュースレターは、この「誤嚥性肺炎」について紹介します。

## 誤嚥性肺炎とは

**誤嚥**（食べ物や唾液が気道に入ること）がきっかけとなって、主に口の中の細菌が肺に入り込んで起こる**肺炎**です。誤嚥を起こしやすいのは、食事の時間が多く、睡眠中などでも唾液が肺に流れ込んで起きることもあります。

**咳嗽反射が生じない誤嚥にも注意！**

### 不顕性誤嚥（ふけんせいごえん）

咳嗽反射が生じない為に、誤嚥物を喀出できず、誤嚥性肺炎のリスクが上昇します  
 不顕性誤嚥は嚥下造影検査（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）を行わなければ正確な診断は困難ですが、疑う症状はあるので、念頭においておく必要があります。

## ★誤嚥のタイプ★

えんげぜんごえん <b>嚥下前の誤嚥</b>	えんげちゆうごえん <b>嚥下中の誤嚥</b>	えんげごごえん <b>嚥下後の誤嚥</b>
飲みこむ反射が起こる前に、食べ物が気管に入っている状態です。 口の中に食べ物を留めておけなかったり、のどに流れこんだ時にごっくんと飲みこむ反射を起こせなかったりするために起こります。	飲みこむ反射が起きる時に、食べ物が気管に入っている状態です。 気管とのどの間にある蓋(=喉頭蓋といいます)が充分に気管をおおえなかったり、おおうタイミングが遅れたりするために起こります。	飲みこむ反射が起こった後に、食べ物が気管に入っている状態です。 のどに残っている食べ物が気管に流れこむことによって起こります。 食事が終わった後に起こることもあります。

食事時・食後の状況観察が必要です。  
 食事時の湿性の声、痰の増加、呼吸数の増加、原因不明の発熱には注意しましょう。

